

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	51	学校名	仙台市立幸町小学校	校長名	武田 芳典
------	----	-----	-----------	-----	-------

1 取組のテーマ 「考えよう わたしたちにできること」

2 取組の紹介



(1) 第5学年 【総合的な学習の時間】

○「環境問題について調べよう・考えよう」(写真①)

野外活動で自然と触れ合った経験を基に、環境問題について調べました。関心がある事柄について情報収集、整理、分析を行い、発表会を行いました。自分たちが生活の中で取り組めることについても考えました。



写真① 児童同士の発表の様子

(2) 第1・3・4学年 【書写】【図画工作】【社会】

○「はことはこをくみあわせて」(1学年)

・家にある様々な廃材を活用して制作しました。(写真④)

○「習字や水彩画の授業後の汚れた水を減らそう」(3学年)(写真②)

・ペットボトルに入れた最小限の水で洗いました。

パレットはティッシュで拭き取りました。

○「ごみのしよりと利用」(4学年)(写真③)

・松森清掃工場見学などをとおして、「ごみのゆくえ」について学習しました。



写真② パレットの拭き取り



写真③ ごみの分別



写真④ 図画作品

(3) 第2学年 【生活及び図画工作】

○「サツマイモのつるでリースを作ろう」

・サツマイモを収穫する際に切り取ったつるを活用し、「つるのリース」を制作しました。



写真⑤ リースづくり

3 取組の成果 (児童生徒の変容)

- ・互いに発表を聞き合うことで、知らなかった課題について知るとともに、環境保全や日常生活の工夫など、環境問題を多角的に捉えることができました。
- ・書写や図画工作の学習では、ごみの減量や水の大切さについて考えることで、身近な生活の中での工夫について考えさせ、環境問題を多角的に捉えさせることができました。
- ・図画工作では、前回の残りの材料を取っておいたり、部品を再活用して作品作りをしたりしました。
- ・各教科の学習では、裏紙を用いて紙資源を無駄遣いしないように気を付けています。
- ・自分で植えたサツマイモの苗を、継続的に世話することによって収穫の喜びを味わいました。
- ・これまでごみとして捨ててしまっていたものでも、再利用できる物があるかもしれないということに気付くことができました。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	52	学校名	仙台市立大和小学校	校長名	曳地 敏明
------	----	-----	-----------	-----	-------

1 テーマ 「自然を好きになり、大切にする児童の育成」



2 取組の紹介

① 自然を好きになる活動

○各学年が、生活科や理科の学習の中で、植物を育てたり観察したりしました。校地の工事により花壇が使用できなかつたときにはプランター栽培を行い、自然に触れることができました。



○委員会活動では、プランターを使って、パンジー、ヒヤシンス、マリーゴールドなど、季節に合わせた花を植え替え、昇降口付近に飾りました。

② 自然を大切にする気持ちを育てる活動「マキの木タイム」

○自然を好きになる気持ちと、身近な自然を大切にすることを育てる活動に取り組んでいます。身近な自然を大切に活動では、近隣の公園の落ち葉拾いを全校のペア学年で行っています。普段から子供たちが遊んでいる公園ですが、改めて見てみると、「こんなにあるの!」とびっくり。時間いっぱい集中してたくさんの落ち葉を集めることができました。また、集めた落ち葉で飾りを作ったりして秋を感じる活動も行いました。



3 取組の成果

- 「自然を大切にする」をテーマにした活動は、校地の工事が7月に終了したため、プランターを使ってできる栽培活動に取り組みました。8月以降には花壇の使用が開始され、プランターから移植したサツマイモなどの植物の栽培にも取り組むことができました。自分たちの育てた植物を大切にしたり、収穫したものに感謝したりして、自然を大切にすることを育むことができました。来年度は年度当初からより広い場所や花壇を使っての活動に取り組むことができるため、様々な植物を育てる活動に取り組み、更に自然を大切にすることを育んでいきたいと思えます。
- 身近な自然のある公園の落ち葉拾いなどに取り組まれました。落ち葉を散らした植物が、次の春には青葉を茂らせ、木陰を作ったり、目に優しい緑の風景を作ったりして子供たちにも地域の人にも、すてきな憩いの場を提供してくれる存在であるということに、改めて気付く機会にすることができました。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	53	学校名	仙台市立鶴谷東小学校	校長名	加藤 真理
------	----	-----	------------	-----	-------

1 取組のテーマ 「身近なエコやりサイクルに挑戦しよう」



2 取組の紹介と成果

◎緑化活動

(1) 草花の栽培や世話等をとおして、育てる喜びと大切さを学ぶ

毎年、6月と11月の2回、季節に合わせた花壇の花の植え替えを行っています。自分たちの学年の花壇に、苗や球根を植え替えたりしています。友達と協力しながら、花の苗や球根を優しく植えていました。また、今年は河北新報社の「あしたのみどりキャンペーン」に2年生が参加し、教室前の花壇を色とりどりに手入れするなど一生懸命「花壇づくり」に取り組みました。「初めて球根を植えて、楽しかった!」「花壇がきれいになって良かった」と喜ぶ児童の様子が見られました。



◎環境整備活動

(1) 校庭や地域の清掃を行って、気持ちよく生活できるようにする

例年どおり年5回、草取り・石拾いの活動をしました。朝の15分間を使って、校庭全体や花壇の雑草を取ったり、石を拾ったりして環境整備をします。

飼育環境委員会が中心となり、集中して作業をしていました。また、休み時間に草取りに励むなど、自主的な活動も見られました。



(2) 鶴東クリーン作戦 ～保護者・地域と連携して～

今年は、学校と保護者、中学生、地域の方々と協力して鶴東クリーン作戦が行われました。本校は校地内に多くの樹木があり、秋になるとたくさんの落ち葉で通学路や校庭が埋め尽くされます。

1、2年生は、校地内の落ち葉を、3～6年生と保護者、地域の皆さんは校地外の落ち葉拾いをしました。皆で協力して、たくさんの落ち葉をかき集めることができました。

「こっちにたくさん落ちているよ!」「皆で協力しよう」など声を掛け合って、作業を行っている様子が見られました。今年度は、集めた落ち葉を使って、2年生と4年生が育てた「サツマイモ」を焼いて、「焼きいも」をする企画が立てられています。PTAの方々の協力もあり、「落ち葉のリサイクル」ができそうです。



(3) 再生紙ボックスを活用して、古紙のリサイクルを行う

飼育環境委員会が手作りの古紙再生ボックスを設置し、学級で余ったプリントを集めます。委員会での活動が始まる前に、飼育環境委員会が担当の教室を回って回収し、コピー用紙とそれ以外の用紙に分別します。委員会の時間が始まってすぐ、活動に取りかかる児童や、まとめるテープを持ってくる児童など、各自が分担をしながら分別作業を行っています。



令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	54	学校名	仙台市立燕沢小学校	校長名	及川 隆行
------	----	-----	-----------	-----	-------

- 1 取組のタイトル, テーマ
「つば小エコ活動」



2 取組の紹介

(1) 全校でのゴミの分別活動

各教室のゴミ箱は、コピー紙が入っていた段ボールをリサイクルして作られています。また、「紙」「ストロー」「汚れたビニール」などは「燃えるごみ」, 「ストローの袋」「汚れていないビニール袋」などは「プラごみ」のように、分別の仕方を分かりやすく表示しています。

全校のごみが集まるごみ集積場でも、分別を間違えないように表示を分かりやすくしています。各教室でそうじ当番やごみ捨て当番の児童が分別を呼び掛ける姿が見られ、無駄なごみを増やさないよう、リサイクルを意識した取り組みが進んでいます。

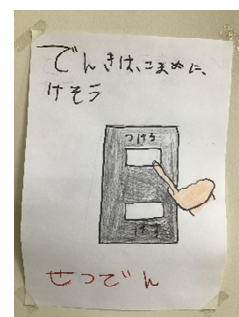
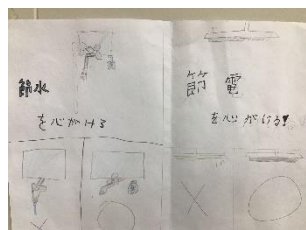
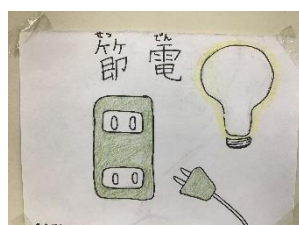


(2) 委員会での取組

環境・福祉委員が中心となり、以下のような取り組みを行いました。

① 節水・節電の呼び掛け

ポスターを作成して掲示することで、児童へ働き掛けました。



② プランターへの植栽

昇降口前にプランターを設置し、春と夏に花を植えました。

どんな花を植えるかの選定に当たっては、長持ちしそうな花、成長してから花を咲かせる植物など、長く楽しめるものという視点で選びました。そして、水やりを欠かさないよう当番活動を意欲的に行っていました。



(3) PTA除草活動

9月に、PTAで校庭の除草活動を行いました。児童・家庭・先生が一緒になって校庭の草むしりを行いました。一人一人の力で心地よく過ごせる学校を作ろうと協力しています。

3 取組の成果 (児童生徒の変容)

- 児童のごみの分別に対する意識が高まり、日頃から「これは何ごみだろう」、「燃えるごみに捨ててもいいですか」といった声が聞かれるようになりました。
- どのクラスも移動教室や下校の際に電気を消すよう心掛けています。ペットボトルに水をため、その水で掃除をするクラスも見られました。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	55	学校名	仙台市立金剛沢小学校	校長名	齋藤 雅人
------	----	-----	------------	-----	-------

- 1 取組のタイトル、テーマ
「環境美化活動・緑化活動」



- 2 取組の紹介

(1) 環境美化活動

学校の近くにある「天沼公園」は、学区内の子供たちが遊んだり、地域の人たちが散歩をしたりしている、子供たちにとって最も身近な自然に触れ合える公園です。総合的な学習の時間には、天沼公園の歴史、花壇整備や清掃活動をしているボランティアの人々の活動について調べました。秋には落ち葉拾いや清掃などの美化活動を通して身近な自然を守り、地域に貢献しようとする態度を養いました。



天沼公園の落ち葉の様子



ボランティアの人々が整備している花壇

天沼公園はどういうところか（今）

天沼公園は200年前にできました。今でもその美しい自然が残っています。きれいな花、たくさんの生き物があり夏では涼しい夕方に犬の散歩に来る人がいます。



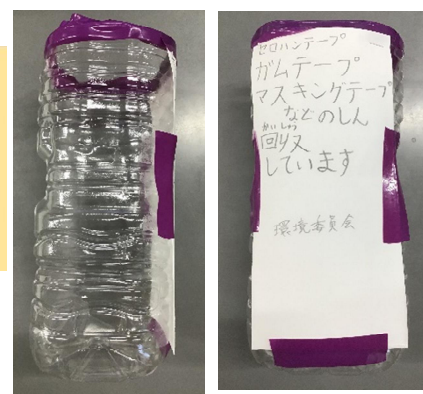
天沼公園の自然についてまとめたスライド

(2) 緑化活動について

ニチバンが行っている「ニチバン巻き芯ECOプロジェクト」では、普通なら捨ててゴミになってしまう粘着テープの巻き芯を回収し、古紙業者に買い取ってもらうことで段ボールに再生する資源となります。また、買い取ってもらった際の利益や支援金を植樹活動や緑を守る活動に当てています。それらの緑化活動に関わるプロジェクトに少しでも協力したいと、学校内でも巻き芯を回収するためのポスター作りや回収ボックスを各教室に設置し、巻き芯の回収を行いました。



巻き芯回収を呼び掛けるポスター



ペットボトルを使用して作成した回収ボックス

- 3 取組の成果（児童生徒の変容）

- (1) 児童が天沼公園の清掃活動に参加することで、公園をきれいに保ち公園を大切に使うという気持ちが育まれています。また、植物の手入れに携わることで、自然を大切にし、環境を守ろうという意識も育まれました。
- (2) 巻き芯を集めることの意義を考え、自分たちの行いが世界の緑化活動につながることを知り、協力したいと意欲的に活動を行いました。12月までにセロハンテープやガムテープ、マスキングテープなどの巻き芯が、大小合わせて約80個集まりました。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	56	学校名	仙台市立大野田小学校	校長名	石川 隆夫
------	----	-----	------------	-----	-------

1 取組のタイトル、テーマ



身近な自然環境や環境と人とのつながりに関心を持ち、環境をよりよくするために進んで行動できる児童を育成する。

2 取組の紹介と成果（児童の変容）

(1) 各学年の活動

1年生・・・【生活科】「きれいにさいてね」「あきのおもちゃをつくろう」

- ・アサガオの栽培や観察をとおして、植物に愛着を持ち、大切にすることが育まれました。
- ・公園で拾ったどんぐりや松ぼっくりを使っておもちゃを作り、自然に親しみました。

2年生・・・【生活科】「おもちゃフェスティバル」

- ・使用済み牛乳パックやペットボトルのキャップ、プラスチック容器等を再利用しておもちゃを作り、楽しみながら遊ぶ活動をとおして、リサイクルのよさを実感しました。

3年生・・・【理科】「花が咲いたよ」他

- ・ピーマン、ヒマワリ、オクラ、ホウセンカの栽培や観察をとおして、植物のライフサイクルについての共通点や違いを理解しました。

4年生・・・【社会】「ごみの処理と利用」

- ・住みよい暮らしをつくる観点から学習を進め、環境問題により一層目を向けるようになりました。

5年生・・・【社会】「わたしたちのまちの生活と森林」

- ・人の生活と森林の関わりについて学習しました。エコマークのある商品を使うなど、自分の生活の中で環境に良い行動を心掛けようという意識が高まりました。

6年生・・・【理科】「地球とわたしたちの暮らし」「生き物の暮らしと環境」他

- ・人々の生活と空気・水・植物との関わりを学びました。持続可能な社会のために、自分ができることについて考えを深めました。

(2) 委員会活動等での活動

- ・栽培委員会は、花壇の手入れをしたり、季節ごとに花の植え替えを行ったりするなど、校庭の環境美化に努めました。
- ・各学級・職員室では節電を心掛け、ごみの分別を継続的に行いました。古紙回収に当たっては、大きさや紙の種類等によって分けました。



令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	57	学校名	仙台市立桜丘小学校	校長名	武田 理恵子
------	----	-----	-----------	-----	--------

1 桜丘小学校における環境教育のテーマ

環境の保全やより良い環境の創造に興味・関心を持ち、課題を解決していこうとする実践的な態度を培う。

2 桜丘小学校の取組

<学校花壇・学年花壇での植物の育生>

本校では、毎年、子供たち一人一人が学校花壇に花を植えています。自然に親しんで愛着を持たせたり、責任を持ってやり遂げることや協力することを学ばせたりするのを目的としています。夏には、バーベナやマリーゴールド、ペゴニアを、秋には葉ボタンやパンジーの苗を植えました。花壇の草取りや苗植えは、各学年の子供たちが行います。花壇への水やりは、今年から環境委員会の児童が、休み時間に交代して行うことにしました。学校全体で花壇を美しくしようという意識が高まりました。



<「環境」の学習>

4学年は、総合的な学習の時間で「環境」について学習しています。今年度は「創ろう未来の桜ヶ丘」をテーマに活動しました。前半は、世界ではどのような環境問題が起きているのか調べ、それを解決するためにはどんなことができるのかについて考えました。後半は、自分たちの住んでいる地域や家庭に焦点を当て、「誰でも、どんなときでもできること」をキーワードに、具体的にどのようなことに取り組んでいけばよいのか考え、提案しました。調べたことは、学習発表会の中で、発表を行いました。子供たちのこのような取組が、家庭や地域の方々へ広がっていければと考えています。

<地域の方との公園探検>

7月には、「青葉の森緑地」管理センター自然解説員（レンジャー）の方を講師にお招きして、低学年の先生や地域の方々と共に桜ヶ丘公園の探検を行いました。桜ヶ丘公園内の花壇には、桜丘小学校の児童と地域の方々と一緒に花を植えた花壇もあります。児童は、桜ヶ丘地区は自然が多いという意識を多く持っています。この公園が地域の方々に大切に守られていることも大きな理由の一つと考えられます。実際に公園を探検し、園内にある植物や生き物について、専門的な視点で解説をしていただくことで、改めて、桜ヶ丘公園のよさに気付きました。レンジャーの方々から教えていただいた内容は、子供たちの気付きを深め、自然を大切にする意識を育むことへとつながっています。

<節電や節水の呼び掛け>

環境委員会の活動の一つとして、節電や節水の呼び掛けを行っています。校内に、環境委員会で作成したポスターを掲示し、水や電気の大切さについて呼び掛けをしています。また、プラスチックごみの分別や紙の再利用など、ごみの分別への呼び掛けも行いました。このような活動をきっかけにしながら、学年の発達段階に応じて環境問題への意識を高めていくことができました。

3 取組の成果

全校児童が、花の育成に関わることで、生き物を大切にする事への意識を持ち、継続することでその意識を高めていくことができています。また、環境委員会を中心とした花壇の手入れや呼びかけ、中学年の総合的な学習の時間での実践をとおして、学校や地域の環境を大切にしようとする意識が徐々に高まっています。今後も児童が主体的にできる活動を考え、実践していきたいと思えます。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	58	学校名	仙台市立袋原小学校	校長名	飯野 正義
------	----	-----	-----------	-----	-------

1 取組のタイトル, テーマ

「袋原小のビオトープ～持続可能な清流整備～」



2 取組紹介

(1) 持続可能な清流を願う

校地内に循環機能により水が流れる川があります。米作りのスペースもあり、「袋原小ビオトープ」と名付けられています。開校より地域と連携して整備してきた自然環境ですが、人の手が不足すると観察に適さない場所となりやすいため、ビオトープの清流を維持する活動を行いました。

(2) 身近な自然として観察をする

ビオトープは児童だけで入ることはできないものの、自然観察するのに適した場所であり、学校全体で親しまれた場所となっています。



3 取組の成果

(1) 清流を維持する活動

袋原小ビオトープでは、地下水より水をくみ出し清流を生み出す循環システムがあるにもかかわらず、昨今の宅地開発も影響しているためか、川に大量の藻や水草が発生していました。



そこで、ビオトープを愛する児童の中から特別に数人を選び、教員と共に藻や水草の除去作業を行いました。それにより水の流れが淀んでいたものの、年明けには清流を取り戻すことができました。

しかしながら、数人の活動では、底の泥を除去するまでには及びませんでした。

(2) 自然観察

生活科の時間などに学級単位で利用されており、低学年児童を中心に親しまれてきました。ビオトープでは、水生生物を観察できます。また、様々な木々に囲まれていて、秋には紅葉狩りも楽しめる環境になっています。

ビオトープの落ち葉や岩や清流に直接触れることは、多くの児童の心に残る体験となっています。今年も、藻や水草の大量発生を見付けた児童を中心に清流の掃除を行い、年明けには元通りの水の流れを再生することができました。今後も、大量の藻が発生したり、底に泥が溜まったりすることが予想されます。特別活動や地域の協力を得て「かいぼり」すれば、持続可能な環境についても啓発もできる場所です。



令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	59	学校名	仙台市立中野栄小学校	校長名	山澤 一郎
------	----	-----	------------	-----	-------

1 「できることからしよう！SDGsに向けて！」



2 取組の紹介

(1) 人権の花運動 (4年生 道徳)

6月27日(金)に仙台法務局による人権の花運動を実施しました。人権擁護委員・法務局職員の皆様の御協力を得て、プランターへの土入れとマリーゴールドの植栽を行いました。児童同士が協力し合うことの大切さ、生命の尊さを実感するとともに、その過程で豊かな心を育み、優しさと思いやりの心を体得することを目的として、植栽を行いました。

(2) SDGsを題材とした学習プログラム (6年生 総合的な学習の時間)

日本人で初めてキリバス共和国に帰化してキリバス人となった仙台市出身のケンタロ・オノさんを本校に招き、「国がなくなる？～キリバス共和国と地球温暖化～」をテーマに、キリバスの生活、問題、気候変動、SDGsについて講話をいただきました。講話を受けて、自分の学習課題を設定し、調べ学習に取り組みました。その際、国語「世界に向けて意見文を書こう」と関連させて、調査した問題についての意見文を書き、グループで意見交換をしました。視点として、「SDGsの目標どうしのつながり・共通点」に気を付けて発表を聞き合いました。

3 取組の成果 (児童生徒の変容)

(1) 人権の花運動 (4年生 道徳)

児童一人一人、「花を育てる大切さ」「命の大切さ」「感謝の気持ち」が生まれ、「人権の花」の目的である心の豊かさや人権尊重意識を高めることができました。

(2) SDGsを題材とした学習プログラム (6年生 総合的な学習の時間)

子供たち同士で意見を出し合うことで、SDGs目標同士のつながりを見いだすことができました。日常会話でもSDGsとの関連を意識している姿が見られました。給食の残食が出そうになると「食品ロスを防がなきゃ」と言いながらおかわりをする子供がいるなど、意識の高まりが感じられました。また、総合的な学習の時間「君たちはどう生きるか」では、SDGsの学習から得た視点を加えた児童がいました。「人にも環境にもやさしい人になりたい」「環境保護に役立つ仕事に就きたい」と記入するなど、自分の進路を考える一助となりました。



4年生 人権の花運動



6年生 SDGsを題材とした学習プログラム

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	60	学校名	仙台市立沖野小学校	校長名	堀越 俊秀
------	----	-----	-----------	-----	-------

1 取組のタイトル, テーマ

「美しい沖野小学校を目指して」



2 取組の紹介

【環境保全に向けた取組】

① 全校行事 除草週間

本校では、毎年全校で校庭の周りの除草作業を行っています。各クラスが割り当てられた場所の除草を行います。また今年度は10月に行われた体育発表会に向けて、校庭のフィールドの除草活動も行いました。自分たちが取り除いた雑草の山を見て、満足そうな顔を浮かべる子供たちがいました。一人一人が自分の学校を美しくしようと一生懸命取り組み、協力し合うことで達成できると実感できたようです。

② ボランティア活動

一部の児童が中心となって、清掃活動を継続して行いました。朝早く学校に来て、昇降口や廊下等の清掃を自主的に行っています。自分たちの学校を自分たちの手できれいにすることの大切さを感じながら精力的に取り組んでいます。



【自然共生に向けた取組】

① 緑化飼育委員会

緑化飼育委員会の子供たちは、季節ごとに昇降口前の花壇に花を植え、水やりなどの世話をしています。今年度は、マリーゴールドやサルビア、ビオラなどの花を花壇やプランターに植えました。今年度は、「沖小レインボー」をテーマに、「仙台市 緑と花いっぱい花壇コンクール」に応募しました。より美しくきれいな花壇になることを目指し、子供たちが配置を考えて花を植えました。

委員会では5、6年の各学級の委員会担当児童が、曜日ごとに水やり当番を決めて草花を育てています。校舎前の花壇やプランターを花で美しく彩ることで、学校が明るくなり、子供たちの心も豊かになります。

さらに、学校の水槽で、グッピーの飼育をしています。委員会の児童が日々えさやりをし、その姿を見て、下学年の児童が興味を持って観察しています。児童はグッピーが元気に泳ぐ姿を楽しそうに見ており、生き物を大切にする心が育まれています。



3 取組の成果 (児童生徒の変容)

子供たちは、自分たちの力で身の回りの環境がよくなることで気持ちよさを感じたり、美しい花を見て幸せな気持ちになったりと、身近な環境に関わっていくことのすばらしさを感じて生活することができています。また、身の回りの環境整備の大切さに気づき、自ら進んで取り組む児童が増えた点もよい変容です。次年度も、環境保全や自然共生の取組に積極的に関わることができるようにし、よりよい環境を作っていく意欲につなげていきたいと思えます。